畑作・野菜・花き生産情報 第1号（要約版）

令和7年4月18日
青森県「農林水産力」強化本部

- ◎ この時期の農作物は、降霜等の影響を受けやすいので、週間天気予報等に十分注意し、適正な栽培管理に努めよう！
- ◎ 小麦の幼穂形成期は平年より遅いほ場が多く、生育量は、ほ場によるばらつきが大きくなっています。適期の追肥と病害虫防除で収量・品質を確保しよう！
- ◎ にんにくの生育は、平年よりやや遅れています。適期の追肥とさび病、春腐病の防除を徹底しよう！
- ◎ ながいもは、掘り遅れによる品質低下を防ぐため、計画的に作業を進めよう！
- ◎ 施設内の温度変化が激しい時期です。適正な栽培管理により高品質な花きの生産に努めよう！

○小麦

- ・幼穂形成期は、消雪が早かった六戸町では3月26日で平年より2日早いですが、十和田市や消雪が遅かった津軽地域では、平年より2～10日遅くなった。
- ・越冬前の生育量が多かったほ場は、越冬後の生育量も平年を上回っているほ場が多いが、越冬前の生育量が平年並～下回っていたほ場は、越冬後の生育量が平年より少なくなっている。
- ・積雪が多かったほ場や、薬剤防除を行っていないほ場では、例年より雪腐病の発生が多い。
- ・2回目の追肥は止葉抽出期から出穂期に生育量をみて適切に行う。
- ・うどんこ病と赤かび病の適期防除に努める。

○にんにく

- ・生育は、平年を下回っている。
- ・りん片分化期は、六戸町で平年より3日遅い4月15日となった。
- ・追肥は、りん片分化期に到達したら適期に行う。
- ・さび病、春腐病の防除を徹底するとともに、春腐病の被害株は抜き取って処分する。

○ながいも

- ・春掘り作業は平年並の3月中旬から始まっているが、3月上中旬の降雨や降雪の影響で、4月10日時点で例年より1週間程度遅れている。芽が動くなどの品質低下を防ぐため、4月末までに作業を終える。
- ・トレンチャー耕は、穴落ちなどを防ぐため適正速度を守る。
- ・栽培法に合わせて種いもを準備するとともに、早植栽培では4月下旬から5月中旬に植付けする。

○だいこん、にんじん

- ・だいこんの発芽は良好である。
- ・好天時はポリトンネル内を換気し、適正な温度管理に努める。

○トマト、メロン

- ・苗の生育は順調である。
- ・定植に向けて徐々に気温を下げて苗を順化させる。ただし、降霜が予想される時や低温時には、二重被覆等で保温に努める。
- ・土壌水分が好適な時期にマルチングを行うなど、ほ場準備を計画的に進める。

○夏秋ギク

- ・8月上旬出荷の作型は、例年並の4月中旬から定植作業が始まっている。苗の生育は順調であり、病虫害の発生は見られない。
- ・親株のハウスは、日中の気温25℃以上にならないように換気する。
- ・移植栽培の場合は、挿し芽を定植2週間前に行う。

○トルコギキョウ

- ・春定植における苗の生育は、一部ばらつきがあるものの概ね順調であり、病虫害は一部にキノコバエ類の発生が見られる。また、越冬栽培の作型で、一部に土壌病害の発生が見られる。定植作業は3月下旬から始まり、順調に進んでいる。
- ・は種直後は発芽適温である20～25℃で管理し、発芽が揃った後は徐々に温度を下げ、15～20℃で管理する。
- ・老化苗は生育が劣るので、展開葉4枚までの苗を定植する。

※農ナビ青森 (<http://www.nounavi-aomori.jp/>) に本文を掲載しています。

◎『日本一健康な土づくり運動』展開中 ～元気な作物は健康な土が育みます～

◎環境にやさしい農業に取り組んで、みどり認定を受けましょう。

◎農薬は適正に使用しましょう。

◎食中毒を防ぐため、生産段階から「野菜の衛生管理」に努めましょう。

◎備えあれば、憂いなし！ 農業保険を活用しましょう！

◎春の農作業安全運動を展開中です（4月1日～5月31日）

◎ツキノワグマ出没注意報発令中！！（4月4日～11月30日）

報道機関用提供資料	
担当課 担当者	(畑作) 農産園芸課稲作・畑作振興グループ 総括主幹 八島敏行 (野菜・花き) 農産園芸課野菜・花き振興グループ 総括主幹 木村一哉
電話番号	(畑作) 直通 017-734-9480、内線 5073 (野菜・花き) 直通 017-734-9481、内線 5076
報道監	農林水産部 次長 栗林豊 内線 4967